

## 最上徳内の墓（蓮光寺）

江戸時代後期の北方探検家、最上徳内は、宝暦5年（1755年）出羽国村山郡楯岡村（現山形県村山市）に生まれました。

天明元年（1781年）江戸に出て官医山田宗俊の家僕となり、同3年（1783年）本田利明の音羽塾にて、天文・測量・地理・航海を学びました。

天明5年（1785年）蝦夷地巡検使に従者として蝦夷沿岸を巡視、翌6年（1786年）<sup>えとろふとう</sup>択捉島に上陸、さらに日本人として初めて<sup>うるっぶとう</sup>得撫島に上陸しました。寛政3年（1791）、同4年にも千島・樺太の探検を重ねた。寛政10年（1798年）には近藤重蔵らと共に択捉島に「大日本恵登呂府、寛政10年戊午7月、重蔵徳内以下十五人記名」の標柱を建てる偉業を残しました。

文政9年（1826年）シーボルトを訪問。「日本北方に関する稀なる蘊蓄深き学者」と評されました。

### ◆蓮光寺 文京区向丘2-38-3

東京メトロ 南北線「本駒込駅」出口2から徒歩5分



最上徳内の墓

